海草振興局農業振興課

普及だより

2010年春号
発行所
海草振興局
地域振興部農業振興課
〒640−8585
和歌山市小松原通1-1
TEL：073-432-4111（代）
073-441-3378（直）
FAX：073-441-3476

～販売促進、消費拡大の取り組み～

海南4Hクラブ ホームページオープン！

4Hクラブ員の作った農産物や加工品を、より多くのお客様に知ってもらうためにホームページを作りました！
季節ごとにミカンやブルーベリー、トマトなどを出品しますので、気軽にパソコンや携帯電話で見に来て下さい＼(^▽^)／

http://shop.wakayamaken.jp/kainan-4h-club/

4Hクラブのネット販売への挑戦

地場農産物の消費拡大

しもつみかんのブランド化

販売促進フェアへの参加

「農業士会相談員制度」

農業振興課は、農業後継者が減少傾向にあるなか、農業大学校、就農支援センター等と連携を図りながら、多様な担い手の育成確保活動に取り組んでいます。

景気の急速な悪化で農業への関心が高まり、就農のための資金や農地の問題、栽培技術、農機具やハウスなどの捜し物まで多くの相談が寄せられ、新しい視点や価値観を持って農業に挑戦する人が増えています。

サラリーマンから、日々生長する作物を相手にする農業をしたいと農業大学校の社会人課程を修了し、水田にビニールハウスを建てイチゴの高設栽培に挑戦。甘い香りのハウスで生き生きと農作業に励んでいる人。

夫のUターンを機に夫婦で技術修得研修を終え、県外の共働き生活から果樹経営に就農。安全・安心を求めて楽しみながらの農業と、商品として生産物を出荷する農業の違いを実感しながら、農家の農業や生活技術の高さに感動する人。

このように新たな農業感を持った新規就農者等を支援しようと、和海地方農業士会が、指導農業士を中心に、地域農業の諸問題相談活動に取り組む『和海地方農業士会相談員制度』を立ち上げました。

まだまだ立ち上げたばかりですが、関係機関と連携し問題解決に向けた取り組みを行いたいと思っています。皆様方のなお一層のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

海草振興局農業振興課長

担い手育成に向けた取り組み

（1）～新規就農者研修会～

基礎的農業技術の習得と相互の交流を目的に研修会を開催し、１０名の参加のもと大阪市中央卸売市場と泉南市の農業団地「かるがもの里」を訪問。

市場では競りの様子を見学し、農産物の流通状況について学び、「かるがもの里」では、葉菜類の水耕栽培を行っている企業や花きを生産している農業法人を訪れ、経営状況や現在の品目に至った経緯などを伺いました。

「市場を初めて見学した。仕組み、雰囲気を目の当たりに体験することができて参考になった」「規模拡大に向けて、何をすべきか考える上で参考になった」といった声が聞かれました。

今後もこのような研修会を通して、新規就農者の支援を行っていきます。

（2）～和海地方農業士会女性部会研修会～

「徳島県上勝町の彩り事業」の視察研修を行いました。

葉っぱビジネスで有名な上勝町でＪＡ東とくしま上勝支所を見学し、その後㈱いろどり社長の横石知二氏から彩り事業の説明を受けました。

小さな町で、彩り事業で年間２億６千万円の売り上げがあり、その主役が地域の高齢者です。

地域住民のやる気を引き出す方法や「どんな地域にでも地域資源がある。プラス思考で何ができるのかを考える事が重要」と力強いお言葉をいただきました。

横石社長の著書を購入するなど、彩り事業に関心が高く、今後地域ので動きに期待したい。

鳥獣害対策の取り組み

深刻化しているイノシシなどの鳥獣害対策の取り組みが各地域で行われています。

●県の鳥獣被害額とイノシシの有害捕獲数　（千円、頭）

	Ｈ１７	Ｈ１８	Ｈ１９	Ｈ２０
被害額	287,876	291,517	296,061	326,647
捕獲数	8,151	6,953	7,195	6,794

●農業者等を対象とした研修会を開催

「農家が地域で実施できる鳥獣害対策」について近畿四国中国農業研究センターの井上雅央氏より講演いただき、その後、海南市海老谷地域の事例発表を行いました。

井上氏の力強く、わかりやすい鳥獣害対策の説明に参加者は、聞き入っていました。

（講演要旨）

◎イノシシが増えている原因を知る
→知らず知らずに餌付け

◎対策の手順
①みんなで勉強
②守れる畑づくり
③柵などの設置
④有害駆除など

食育の推進

子供たちに食べ物の大切さや農業への理解を深めてもらう食育活動を行っています。

①みんなで梅干し

４小学校で梅干し作り体験を実施。

生活研究グループの食育ボランティアの方々にもご指導をいただきました。

②米づくり体験

２小学校で農家の指導のもと田植えと収穫作業を体験。生産者を招いて米料理を披露するなど、様々な体験につながっています。

③シェフの技を体験

県調理士会、ＪＡの協力を得て、４小学校においてキッズシェフ体験を実施。和・洋・中様々なプロの料理人直伝の技と味を体験しました。

④「和歌山なんだからみかんをもっと食べようキャンペーン」

管内全小学校８２校に１０キロ箱２８９箱のみかんを配布しました。

異業種との連携による地域特産品開発の取り組み

（1） ～農商連携による唐辛子栽培～

中山間地域の農業振興を目指して香辛料メーカーと連携して唐辛子の試験栽培を行いました。４月に海南市、紀美野町の農家７戸に２,０００株の苗を配布。８月中旬から１０月末まで収穫、１５０kg集荷して香辛料メーカーに出荷しました。

【唐辛子栽培に取組んだ農家の意見（問題点）】

1．収穫に労力がかかる。
　１時間当たりの収穫量は１kg程度。１日収穫して１０kg程度。

2．陰干乾燥では約１ヶ月程。
　唐辛子の軸部分を緑色に仕上げるため陰干しを行う。
　山椒の乾燥機の場合、４０～６０℃で１６時間程度。

植付け後、収穫・乾燥に労力を要する。中山間地域の農家では、２００本程度の作付けが望ましい。各農家での乾燥は難しいことから、生果で集荷して乾燥する体制を整える必要がある。

（2）～山椒とシシ肉のコラボ～

ＪＡの山椒取扱量が増え、その販売対策が課題となっています。

また、イノシシ被害も年々増加傾向にあり、山椒を活用した特産品づくりと獣肉の利用促進を狙って、管内の精肉店並びにＪＡながみねと連携して山椒入りイノシシソーセージを試作。管内の市町、ＪＡ、猟友会、生活研究グループ、山椒部会長など関係者約４０名を対象に試食検討会を開催しました。

アンケートの結果、外観・品質は好評、食味では改善が必要との意見が多く聞かれました。試作品は５本入り１,５００円程度で、コストの削減が、今後の課題として残りました。

山椒入りソーセージが好評であったため、豚肉の山椒入りソーセージを試作、農林業まつり限定で試食販売を行いました。

産地活性化に向けた新たな取り組み

（1）～「しもつみかん」のブランド化推進～

新農林水産業戦略プロジェクト推進事業を活用して、ＪＡながみねとともに農産物の生産・加工・販売など総合的対策を進め、農家所得の向上を目指した新たな取り組みを始めています。

●平成２１年度の取り組み

海南市下津町で、調査園２５園地を設定し、品質調査や葉分析、土壌分析、貯蔵条件等を調査して栽培管理法の確立を図ります。

また、首都圏への出荷拡大や海外への販路開拓などを進めるため、今年度はフェアの開催や海外への試験出荷を始めています。

肥大状況の調査

貯蔵状態の調査

●今後の取り組み

平成２３年度まで各種調査やマーケティング活動を行って、一層のブランド化を図って所得向上に繋げたいと考えています。

（2）～砂地野菜産地の土壌消毒対策の推進～

関係機関と連携し、ショウガ栽培農家の栽培体系に即した臭化メチル代替土壌病害防除技術の確立・普及を行うための基礎データ収集を行っています。

本年度はその一環としてアンケート調査を実施しました。

（アンケート調査の結果）

①ショウガの作型
　無加温栽培51%　　加温栽培42%　　露地栽培7%

②ショウガの収穫終了から後作の播種までの期間
　加温、無加温栽培で、20～40日が多く、後作の品目は、ホウレンソウ、コマツナ等で１～２回作付けされている。

③軟弱野菜等の前作終了から種ショウガの定植までの期間
　加温栽培で概ね40～60日、無加温栽培は河西地区で50～80日、布引地区14～30日、露地栽培では40日以上の回答が多かった。

④土壌消毒の時期
　加温栽培では11月上旬から始まり、無加温栽培では12月上旬、露地栽培は３月下旬から行う回答が多かった。

ショウガと軟弱野菜等を組み合わせた周年作付体系で施設が高度に利用されている。今後、このような作付体系に即した土壌消毒技術の普及に向けて関係機関と連携して取り組みます。

受賞おめでとうございます

和歌山県農林水産業賞

平成２１年度は２名の方が受賞されました。
農業部門　鈴木 健弘さん（和歌山市）
農業部門　小栗 啓司さん（和歌山市）

左から　小栗さん、仁坂知事、鈴木さん

この賞は農林水産業の振興発展並びに農山漁村の活性化に貢献し、業績が特に優れ、他の模範となるべき個人及び団体の功績を表するものです。

女性・高齢者グループの生活・生産に関する表彰

生石ふれあいグループ（紀美野町）が知事賞を受賞しました。販売所の運営を通じ、長年にわたり地域の活性化に寄与する活動が高く評価されました。

農山漁村女性チャレンジ活動表彰

和歌山市生活研究グループ連絡協議会が優良賞を受賞しました。
長年にわたる食育や地産地消を促進する活動が高く評価されました。

県独自品種の開発

県では県独自品種の開発に向けた取り組みを進めており、最近開発された品種を紹介します。

「まりひめ」　章姫×さちのか
- 花芽分化は「さちのか」より１週間早い。
- 収量は「さちのか」に比べ120%以上。
- 果型の揃いも良く、上物率が高い。
- 果形は肩部が丸みを帯びた円錐形。
- 果肉の硬さは「さちのか」より軟らかい。

「YN26」
「ゆら早生」と比較して
- 減酸が早く、収穫時期も早い。
- 糖度が高い。
- 果実重は同等かやや小さい。
- 果形指数は大きく、やや扁平。
- 着色がやや早い。

「NK14」　南高×剣先
- 自家和合性で着果率が高い。
- 収穫は「南高」よりやや早い。
- 果実重は「南高」と同等かやや小さい。
- 果面にツヤがあり、紅色着色がよい。

「橙高」　南高×地蔵ウメ
- 完熟で果皮と果肉が橙色になる。
- β－カロテン含量が高い。
- 自家和合性を持ち着果率が高い。
- 果実は「南高」より小さい。
- 完熟期は「南高」と同程度。

※果樹で有望な性質の枝変わりがございましたらご協力お願いします。

編集後記

昨年は政権交代で民主党を中心とした政権となりました。事業仕分けなど注目を集めた取り組みもありましたが、農政においても新たに戸別所得補償モデル事業が実施されるなど大きな変化があります。
農産物価格はどの品目も苦戦していますが、まずは政府の景気回復対策に期待したいものです。